

第1回評価委員会での中期目標（素案）に関する議論の整理

委員からの主な質問等	県の考え方
<p>看護師が不足し、医師も不足している診療科があるという課題がある中では、まずこの課題を解消するための目標に重点を定めるべきではないか。</p> <p>高度医療の提供について、「多くの分野で県内最高水準の医療を提供する」目標を掲げているが、そもそも実現の可能性があるのか。また、三重大学の他に医師を確保できるルートはあるのか。</p>	<p>医師確保については、現在、主として三重大学に医師の派遣を依頼しており、引き続き三重大学と連携する中で医師を確保していく必要がある。</p> <p>なお、医師をはじめとする医療人材の育成や高度・専門的医療の整備を含む地域医療再生計画（拡充分）を策定しているところであり、この結果を踏まえて、総合医療センターにおける人材育成機能等のあり方を検討していく必要があると考えている。</p>
<p>高度医療の提供については、これまでの総合病院的な枠組みの中で一定の水準まで引き上げることを目指すものなのか。何かに特化したものを想定して県内最高水準を目指すというものなのか。</p>	<p>全ての分野で県内最高水準というのは難しいと考えているが、ある分野で特色を持った医療を提供し、人材育成にも力を入れていくという意味合いで記載している。</p>
<p>中期目標（素案）は、現在の病院運営を基本に書かれていると思うが、法人化後もこのままで良いのか検討は必要である。</p>	<p>法人化後の総合医療センターの役割や機能が現状と大きく変わるというわけではなく、これまでと同様に高度医療、特殊医療、救急医療、災害医療などの重要な役割を果たしていくものと考えている。</p> <p>一方、病院の運営については、独法化のメリットを活かした病院の独自性が発揮される仕組みを検討していく必要があると考える。</p>
<p>医師等医療人材の不足を考えると、地域の病院、診療所との連携が不可欠であり、北勢保健医療圏全体で役割分担あるいは連携しないと、医療提供体制を確保することは困難である。</p> <p>こうした観点から中期目標（素案）には、病病・病診連携の記載があり評価できる。</p>	-
<p>地域全体を見て役割を果たすという考え方は重要であり、地域で医療資源を有効活用して良い医療を提供するためには、各病院がそれぞれ特色を持って医療を分担し合うことが必要となる。</p> <p>当然そういったことをするためには、安定した財政基盤が必要になる。</p>	<p><補足></p> <p>県が求める政策医療や不採算医療に関しては、県において適正に算定し運営費負担金として交付することとなる。</p> <p>一方で、総合医療センターに対しては、素案の中で、「第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項」において安定した経営基盤を確立することや、「第4 財務内容の改善に関する事項」において中期目標の期間に経常収支比率100%以上を達成し、維持することを求めている。</p>
<p>中期目標（素案）の記載内容について、センターの現場職員は知っているのか、現場の意見は反映されたものなのか。現場を無視した案とならないように配慮してほしい。</p>	<p><補足></p> <p>素案は現場の意見も聴取した上で作成したもので、2月には職員へ素案の説明を行うとともに、院内で様々な機会を捉えて説明している。</p>
<p>北勢の二次医療機関の意見を聴取してほしい。</p>	<p><補足></p> <p>近隣の二次医療機関の院長等に直接面談のうえ、意見を伺った。</p>

上記は第1回評価委員会での議論を整理したものに、補足として県の考え方を追加したもの